

あの日

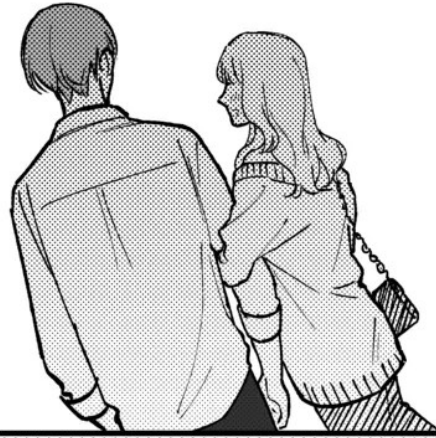
莉緒さん

僕は柄にもなく

僕の恋人になって
くれませんか

自分から告白をした

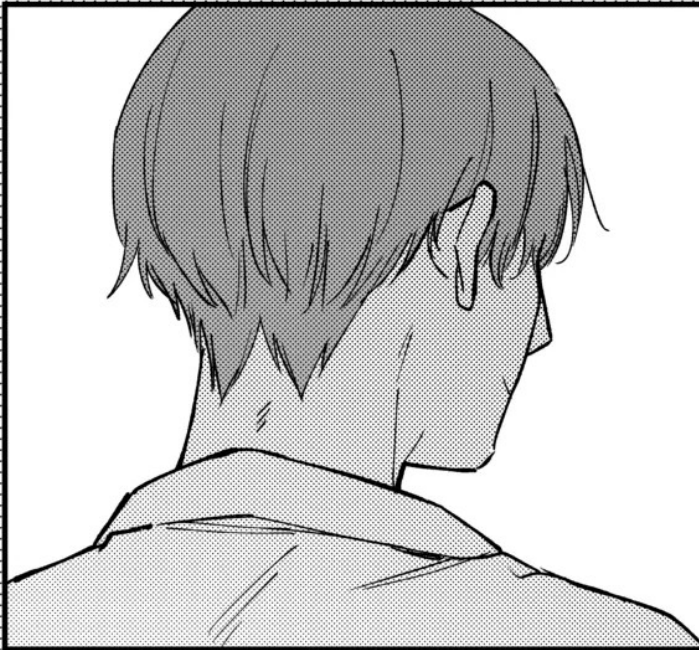
女性から告白
されたら付き合っ
つという日々を
過ごしていたので



別れては
付き合っ
つてを
繰り返して
いた

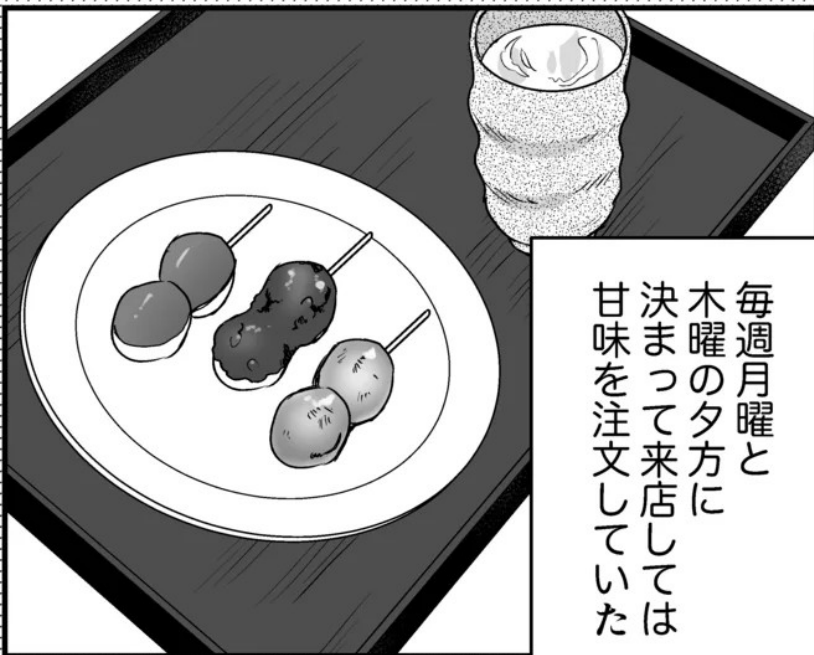
隣に誰が居ようと
あまり
変わらなかつたし

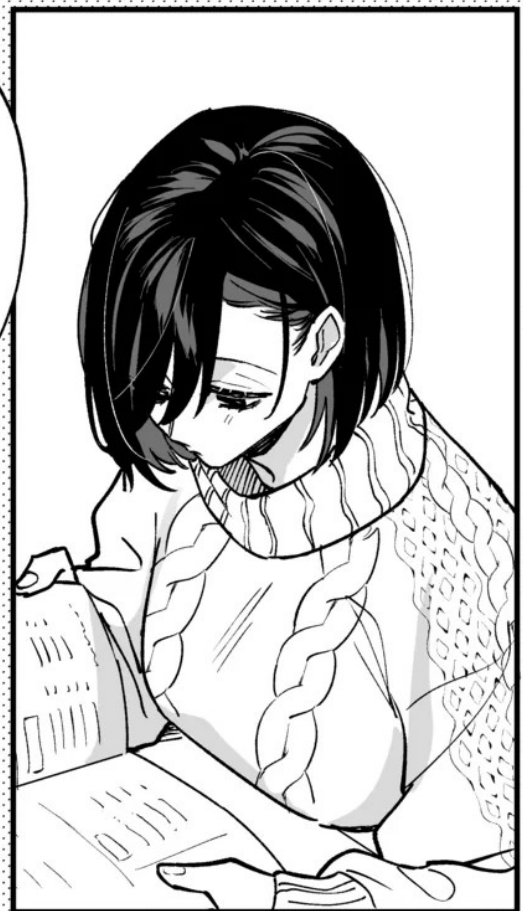
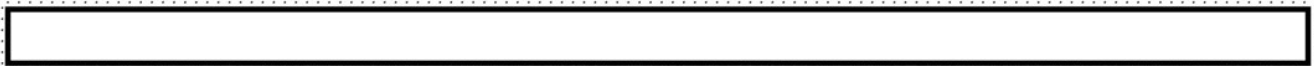
相手にそこま
で
興味もなかつた



彼女は
2〜3ヶ月ほど
前から僕の店に
通ってくれていて

毎週月曜と
木曜の夕方に
決まって来店しては
甘味を注文していた







じゃあそれを...



僕のおすすめなんですよ

まだ
召し上がられた
事なかった
ですよね?





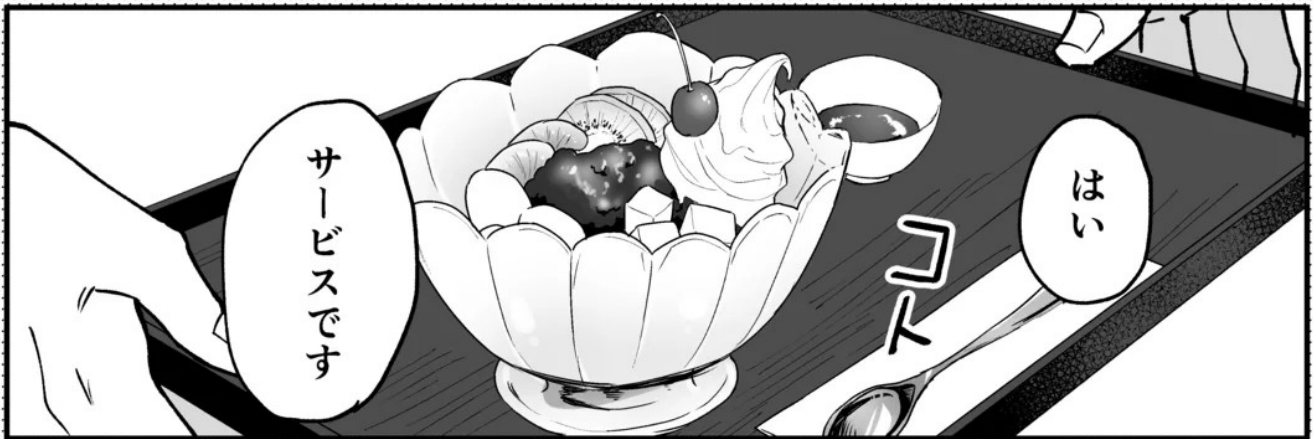


…学校の實習の
片付けが長引いて
しまつて…

ギリギリに
来てすみません



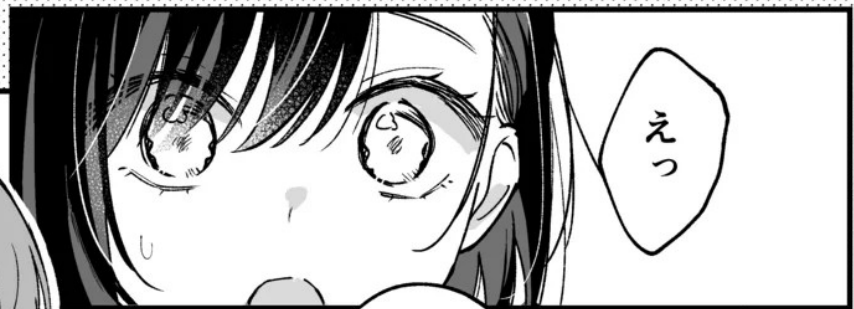
今日は随分と
遅くにいらした
んですね



サービスです

はい

コト



えっ



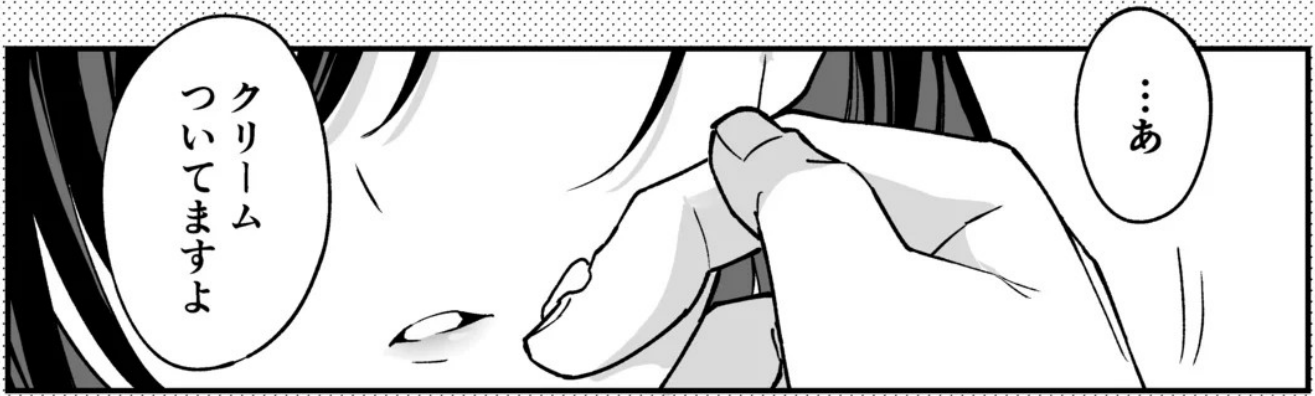
頑張った日くらい
贅沢してもバチは
当たりませんよ

他の方には
ナイショだよ



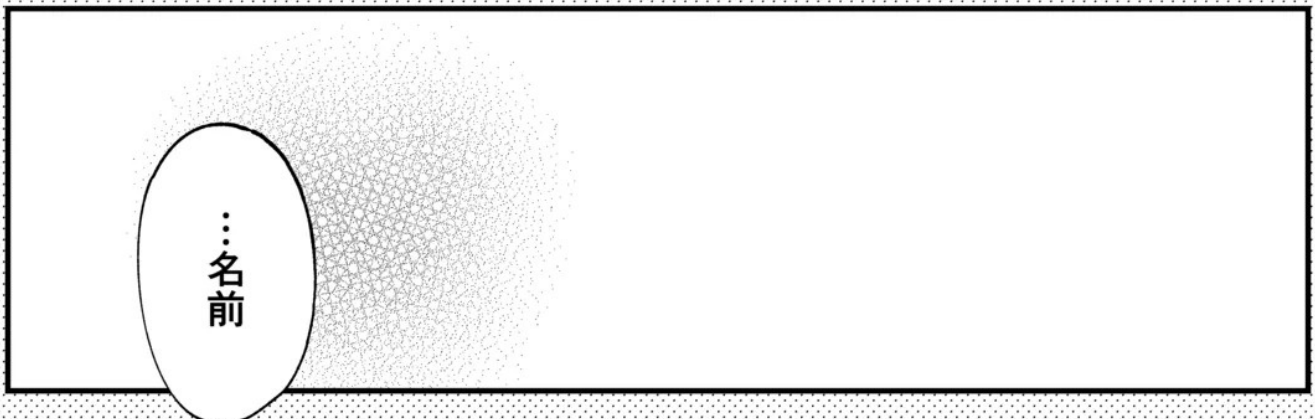
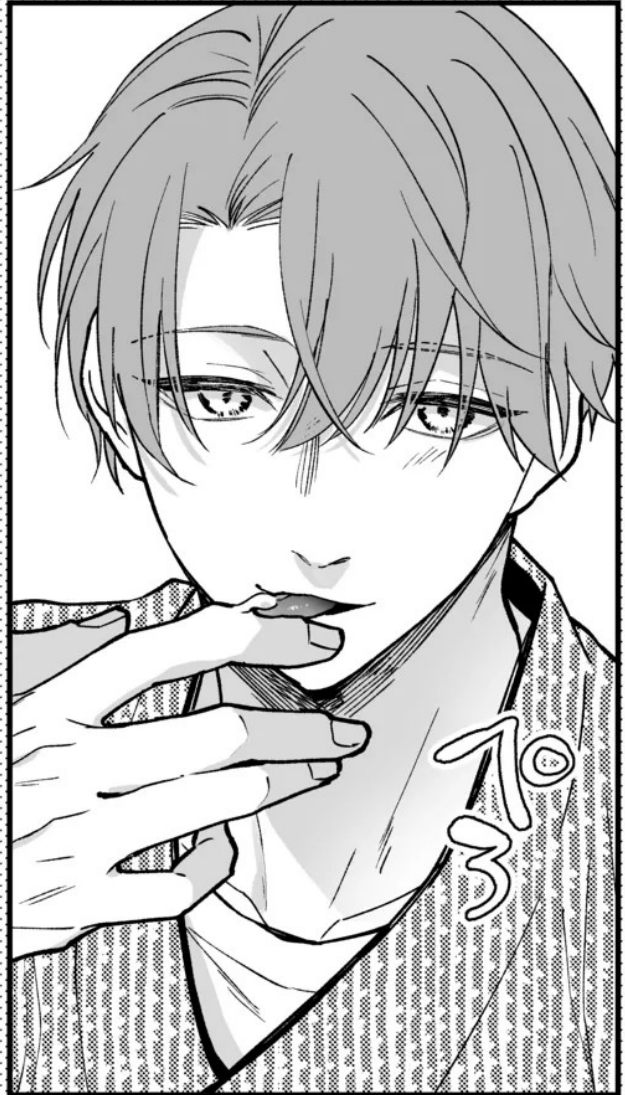
トッピング
全部のせあんみつ





クリーム
ついてますよ

…あ



…名前

貴方のお名前は？

う、臼井です

下のお名前も
聞いても？

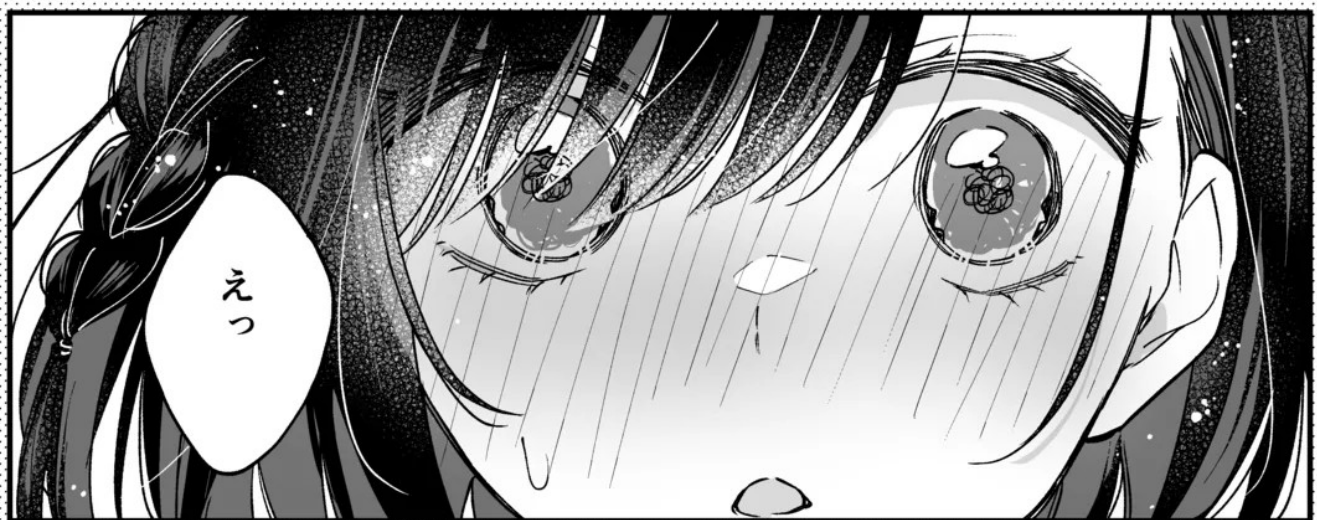
莉緒…です

莉緒さん…

僕は中澤清司
と言います

この店の
店長をします

…莉緒さん





貴方と
もっと親しく
なってみたく
思っただんです

…もちろん

嫌なら断って
いた
いだいて
構いません



えっ？？？？？

な、なんで
…私？

っ



そんな…

嫌なんてこと
ないです…



ただ…私まだ
誰かとお付き合い
するとか

そういった経験が
ないので

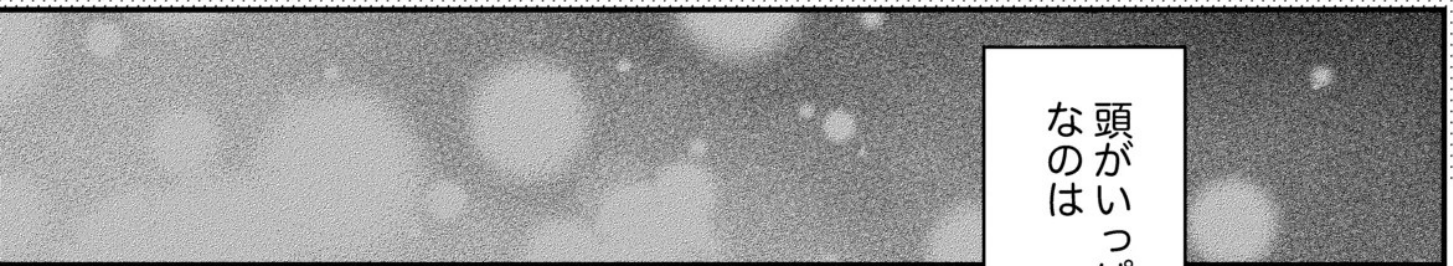
ご迷惑おかけ
しちゃうかも
しれないんですけど…

ふふ



それから
というもの

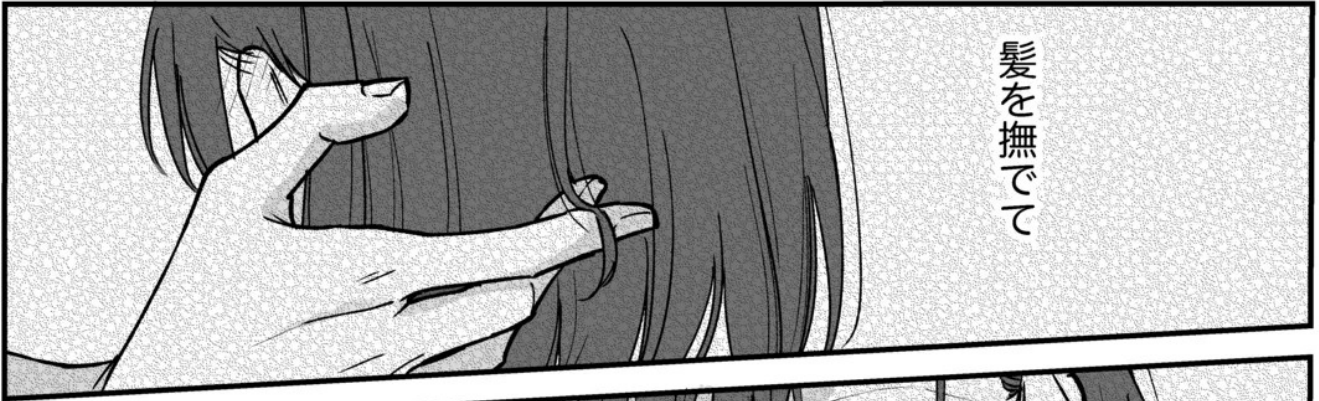
僕の頭の中は
莉緒さんのことで
いっぱいだった



頭がいっぱいなのは

邪な意味でも同じであって――





髪を撫でて



頬に触れて



柔らかそうな
唇にキスをして



徐々に肌を
露わにさせて

—なんて

生優しい
抱き方でなく

もっと激しく
乱れさせたい

ああ
でもそんな
ことをしたら

彼女が怖がって
しまう

優しい…かな…



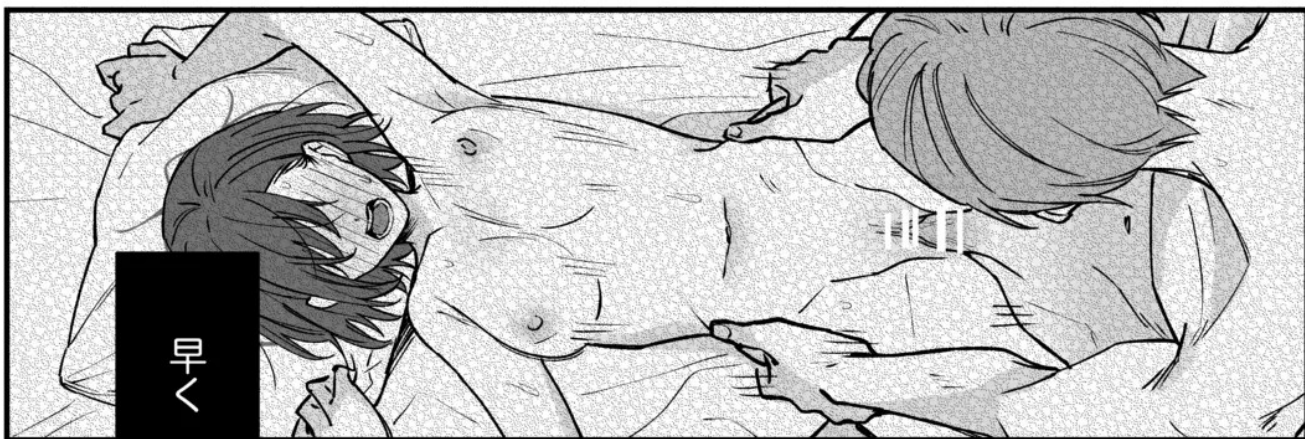
…さ
や

妄想の中で
くさく

好きにしても
許されるだろう



早く



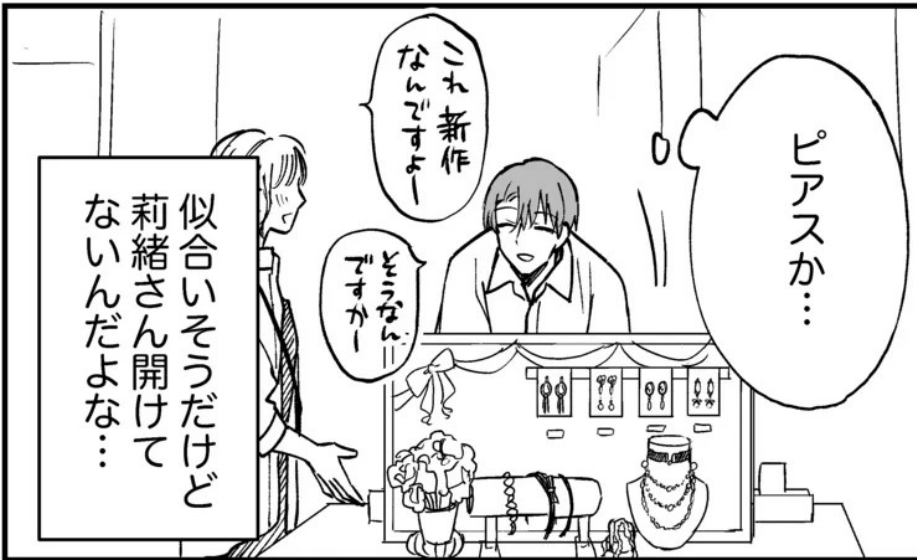
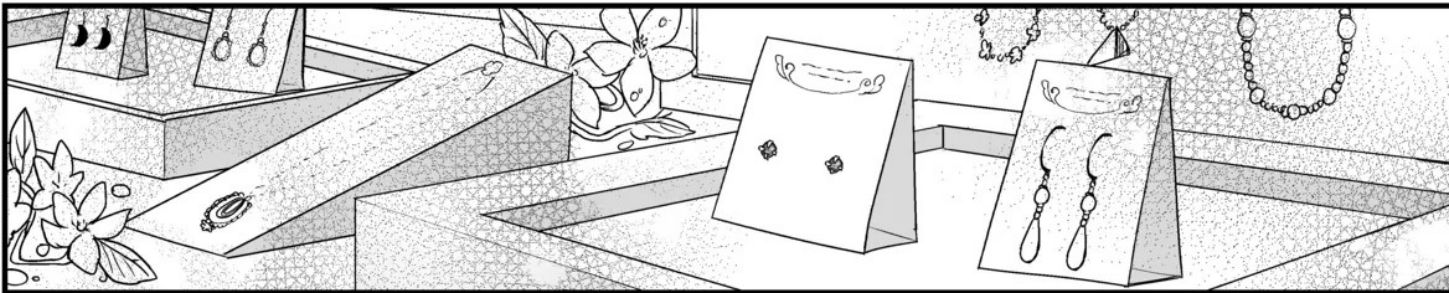
早く



早く



莉緒さんが欲しい——

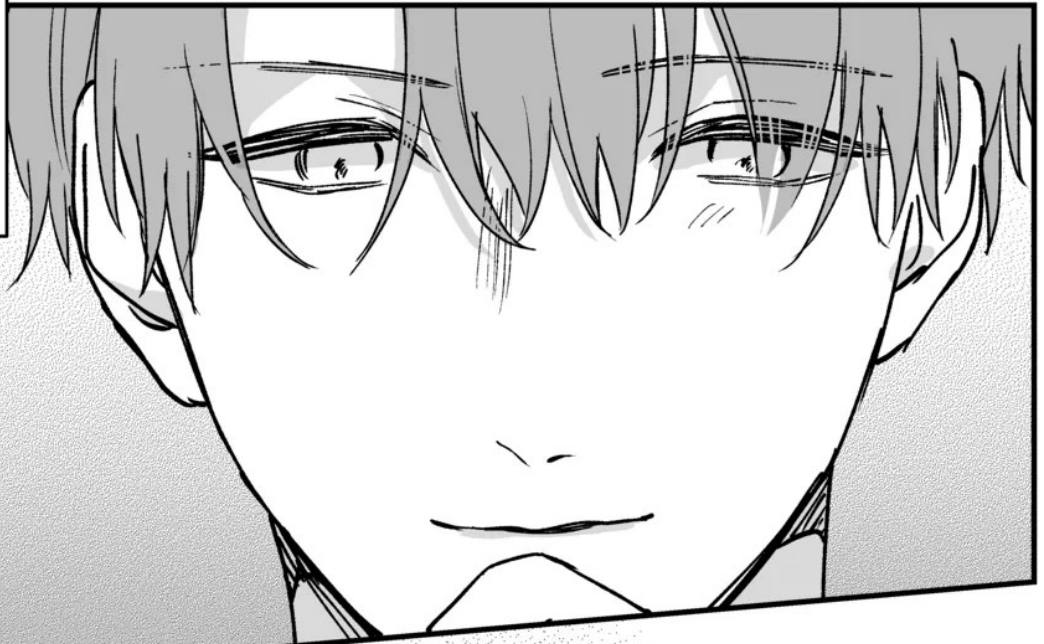




傷ひとつない
まっさらな体に

これをプレゼント
したら
開けてくれたり
するだろうか

僕のために痕を……



すみません
これをプレゼント用に
してください

蒼の零～another story～

発行者◇花村みかん(森の停留所)

発行日◇2022.09.04(COMITIA141)

連絡先◇ohanariri0318@yahoo.co.jp

twitter◇@hana_mori17

pixivID◇28345493



↑マシュマロ
感想頂けたら嬉しいです！

本作品内の絵と文の転載は禁止です。
作品を当サークルに許可なくインターネット上にアップロードした場合、
(著作権法23条)10年以下の懲役もしくは1000万円以下の罰金、
またその両方が同時に科せられます。(著作権法119条第1項)
発見した場合は法的措置をとります。

All rights reserved.

Unauthorized duplication is violation of applicable laws.